

第四部 血液の循環不全は万病の元 -血液の循環が悪くて起こる病気-

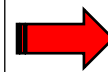
第4章 高脂血症と動脈硬化

高脂血症とは、血液中の脂質すなわち LDL コレステロール（悪玉コレステロール）もしくは中性脂肪（トリグリセライド）のいずれか、もしくは両方が高値を示すものをいいます。最近では、総コレステロール値というよりも、LDL コレステロールと HDL コレステロール（善玉コレステロール）の両コレステロール値および中性脂肪を測定するようになりました。

●高脂血症は動脈硬化疾患の最大の危険因子

高脂血症が動脈硬化の大きな危険因子であることは国内外の数多くの臨床試験によって証明されています。

- ▶総コレステロール値と冠動脈疾患（心筋梗塞）による死亡の相関関係
- ▶中性脂肪と冠動脈疾患発症の相対危険度を調べた試験



高脂血症でははるかに危険度が高いという結果

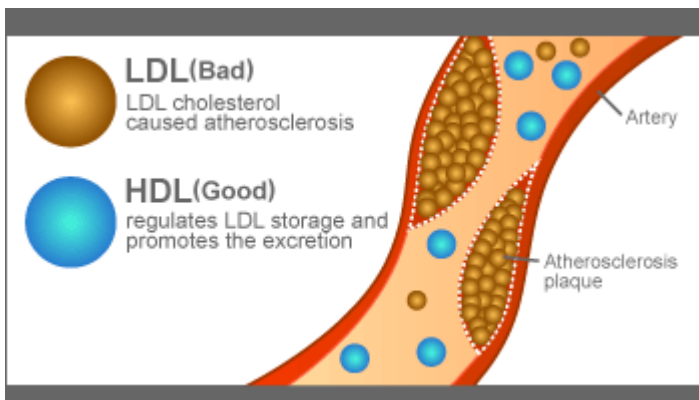
しかし、最近になって善玉コレステロールである HDL コレステロールが異常に低値を示すものも循環器疾患による死亡が高いことが認められています。

そこで 2007 年日本動脈硬化学会は、HDL コレステロールの異常低値も含めて「高脂血症」という表記から「脂質異常症」表記に変更・改訂して「動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2007 年」を発行しました。

<脂質異常症の診断基準>

高 LDL コレステロール血症	LDL コレステロール値 (LDL-C)	140 mg/dL 以上
低 HDL コレステロール血症	HDL コレステロール値 (HDL-C)	40 mg/dL 未満
高トリグリセライド血症	トリグリセライド値 (TG) ※トリグリセライドは代表的な中性脂肪	150 mg/dL 以上

(日本動脈硬化学会編「動脈硬化性疾患予防ガイドライン」2007年版より)



高脂血症（脂質異常症）は、全く自覚症状がないまま進んでいきますが、これを治療せずに放っておくと怖いのは動脈硬化（特に粥状硬化）が秘かに進行することなのです。

そして、動脈硬化を基盤とする脳血管障害（脳血栓、脳梗塞）、虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）、閉塞性動脈硬化症などの動脈硬化性疾患の発症リスクが著しく高くなるのです。